

高等学校 令和 4 年度 （ 1 学年用）

教 科 ： 書道

科 目 ： 書道Ⅰ

単 位 数 ： 2 単位

対象学 年 組： 第 1 学年

教科担当 者：（1～6組： 井ノ上 ）

使用教科 書： 書Ⅰ（光村図書）

教科の目 標： 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書特有の用具、用材の特徴、書の要素、用筆、運筆等の表現形式について、古典、古筆の表現及び鑑賞を通して理解し身に付ける。	古くから継承されてきた書の伝統、文化の良さ、美しさを捉え、生活や社会における、美の役割、効用、価値を考え、作品に表現できるよう考えて活動を展開できるようにする。	主体的に書の表現や鑑賞に取り組み、生涯に渡り文字や書と豊かに関わる資質、能力を能力を育成する。書の伝統と文化を理解し、多様な書と関わることで心豊かな生活や社会を創造していく態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 間
1 学 期	1 単元名 漢字の書						
	【知識及び技能】 漢字の五書体のうち、楷書、行書を中心に、草書、隸書、篆書の発生、変遷を踏まえ理解の上、用筆、運筆を学び身に付ける。	【使用教材】 教科書、書道用具一式、硬筆レッスン帳	【知識及び技能】 五書体の違いを理解し、用筆、運筆を身に付けようとしている。				
	【思考力、判断力、表現力等】 古典の臨書を通して、用具、用材の理解を深め、古典の比較、書体の変遷や鑑賞を通して多様な表現力を養う	【指導項目・内容】 書写から書道への基礎知識、文房四宝（紙、墨、硯、筆）、楷書 唐の四大家の古典（孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、顔氏家廟碑、隄寺心経）行書（蘭亭序、風信帖）等の臨書。それぞれの書風、運筆を学び、構成力を身に付け、表現する意図を引き出せるように導く。創作活動	【思考力、判断力、表現力等】 各種古典の臨書活動を通し、多様な表現が出来るように努力している。	○	○	○	26
2 学 期	1 単元名 仮名の書						
	【知識及び技能】 仮名の成立と種類、筆使い、平安時代の様々な古筆の臨書を通して、筆者や書風、用筆、運筆を理解し、身に付ける。	【使用教材】 教科書、書道用具一式、硬筆レッスン帳	【知識及び技能】 仮名の基礎知識や、古筆の特徴、運筆等を臨書を通して、身に付けようとしている。				
	【思考力、判断力、表現力等】 古筆の臨書活動を通して、実感的に身に付けた古典の書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成についての表現効果と関連付けて考え、作品の構成や表現の工夫に生かす。	【指導項目・内容】 適切な用具、用材の扱い方、選別、知識、用筆、運筆を身に付ける。平安時代の古筆（蓬萊切、高野切第三種、関戸本古今集、寸松庵色紙等）の臨書。作品づくり（創作）	【思考力、判断力、表現力等】 臨書活動を通して、身に付けた知識や技能を作品の構想や表現の工夫に生かそうとしている。	○	○	○	24
3 学 期	1 単元名 漢字仮名交じりの書						
	【知識及び技能】 現代の表記で生活にも即した漢字仮名交じりの書が身近で親しみやすく、書の表現を楽しむことができる分野なので、学んできた名筆の良さを生かせるようにする。	【使用教材】 教科書、書道用具一式、硬筆レッスン帳	【知識及び技能】 学んできた名筆の良さを生かせるようにしている。				
	【思考力、判断力、表現力等】 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成を構想し工夫することが出来る。	【指導項目・内容】 書家、著名人、ポスター等の表現の鑑賞。作品づくり（創作）の手順（文字、文章決め、構想し草稿練る、構成、用具選別等）	【思考力、判断力、表現力等】 漢字仮名の調和を構想し、工夫している。	○	○	○	20
3 学 期	【学びに向かう力、人間性等】 太古から続く、文化としての文字によって、自己表現する芸術として、また、身近な生活に根ざした“書道”を学ぶ意識と日本の大切な文化として育む心を養う。		【学びに向かう力、人間性等】 現代の芸術文化としての書道を学び、表現する意識を養うとしている。				